

駒形実君 これからも宜しくお願いします。

長谷川博一君 駒形さんの卓話、期待しています。

佐藤啓策君 駒形さん卓話ご苦労様です。楽しく聞かせて頂きます。

小林繁君 4人目の孫が生まれました。

佐藤弘志君 駒形さん卓話御苦労様です。

外山晴一君 駒形さんの卓話期待しています。

北鼓隊一同君 大野さん、おめでとうございました。8月6日の披露宴では、お二人の末永い幸せを祈り、精一杯たたかさせていただきました。また大野さんの、うまいハッスル太鼓で、主役を取られてしまいましたが、たいへん楽しかったです。ご祝儀の一部をニコニコBOXへ、

* 本日の食事：トマト冷スープ、ビーフシチュー、サラダ、シャーベット

卓 話： 「自己紹介」 駒形実会員



今日の卓話を担当させて頂く駒形です。

最初に「生い立ちと私の子供」、次に「趣味」、最後に「会社」の順でお話させていただきます。宜しくお願いします。

私は、昭和25年2月2日、四人兄弟の末っ子として生まれ、今年（西暦2000年）でちょうど50歳である。昔なら人生50年、天命を迎える歳である。

しかし、昨今の寿命の伸びから予定では、残り二十有余年の余生が与えられている。食料事情、医学の発達等生きる期間が延びたことは有難い。

さて、本論である「生い立ちと子供」に入ろうと思う。

父は、昭和10年4月に「紙函屋」を創業した。当時のことは、まったく知る由も無いが、戦後の復興期から昭和48年頃の高度成長期は、あらゆる産業が高い稼働率で慢性的な人手不足と設備不足の期間と言えるだろう。会社も御多分に漏れず、仕事は豊富であり、朝なべ・夜なべの毎日であった。生半可でなく、身を粉にして働いていた姿を思い出す。

30年代は、確か木曜日が電休日の休日であったため、日曜は隔週の休日であった。（違っていたらお許しを）近所の方々には、大変迷惑をお掛けし、文句も言わず仕事をやらせて頂いたことに感謝すると共に度量の大きさに敬服する次第である。

私には、夜なべの機械の音が子守唄であった。仕事に追われている両親にとって、今日の家族サービスのように行楽地に出かける時間などあろうはずも無く、私たちも出かけたいたいなどと思わなかった。

しかし、忙中閑の中で唯一お盆には、一泊か二泊泊まりで出かけた。小学校5年の時、尾瀬沼登

山をしたのを鮮明に覚えている。私が後年、山が好きになった一因でもある。それが、親にとっての精一杯のサービスだったに違いない。その代わり、町内の仲間とは暗くなる迄よく遊んだ。当時の子供のグループでは、年上の兄貴分がよく面倒を見てくれた。私をおんぶして映画に連れて行ってくれた先輩、納屋でのお化けの話や登校前の草野球・酒を教えてくれた仲間等々、北新保の諸兄・仲間に恵まれて、楽しい少年時代であった。

それに対して、私の子供の世代といえば、家でファミコン、仲間も同年ばかりで先輩・後輩の行き来の無いグループ。これで、豊かな感性・人情の機微を感知出来る人材が育つのか、少々寂しく感じるのは、私が歳をとったせいであればよいのだが…。

次に、「趣味」の話に移りたい。私は、生来体を動かすのが好きである。だから、体育会系の趣味が多い。中でも「登山」「スキー」「ゴルフ」は、根っから好きである。最近、シンキングスポーツに「競馬」も入った。これは、JRAへの奉仕活動であるが。

私が最も好きな趣味がスキーである。一時、ゲレンデスキーに飽き20代後半には、山スキーを楽しんだ時期があった。スキーを担いで雪山を6時間～7時間かけて登り、一斉にシュプールを描いての滑降は、気分爽快である。よく行ったのが、守門・浅草岳である。お金と暇があればヨーロッパやカナダ・アラスカで滑ってみたいと思う。自然大好き人間である。

登山では、富士山・北岳・乗鞍・槍穂高連峰、北アルプス等三千メートル級の山は、ほとんど登った。思いでもたくさんある。大正池から見た快晴の穂高連峰、縦走途中の大キレットでの吹雪、雲が引けた大キレットの絶壁を見た時の恐怖感、巻機山の沢登りルートでのブロック雪崩との遭遇と九死に一生の経験をした。今思うと、生きていられて運がよかったと思う。思い上がって冬山登山をしていたら今頃この世にいないだろう。

若い時からの願望で叶えられないのが、飯豊連峰である。これが唯一心残りの山だ。いつか登頂を夢見ている。そこで、近々飯豊連峰と駒ヶ岳登山の予定がある。皆様の中で、足に自信がある方は、参加しませんか。楽しい思い出になると思います。一日10時間～12時間の登山が出来る健康に自信がある方でないと無理である。私も往年の脚力は無いので、トレーニングを積んでからでないと飯豊連峰は自信が無い。

手前味噌な宣伝になって恐縮であるが、「駒ヶ岳つれづれ日記」の本を出版した。その中には、大自然の神々しき景色がいっぱい詰まっている、すばらしい本だと思う。ぜひ見ていただきたい本である。

最後に、会社について少しお話したい。弊社も十数年前から、通信・印刷分野のデジタル化で金喰い分野が増え、お客様には喜んで頂いている。

これからは、企業規模より中身とスピードが重要になろう。私見だが、第三次産業革命に入ったのではないと思うくらい激変である。これらの若い人には、日本沈没なんて事に成らないようがんばっていただきたいと思う。